

遠隔教育システムを活用した 実証事業について

愛知県瀬戸市教育委員会

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

愛知県の現状

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）



トヨタをはじめ製造業が盛ん

全国で最も多くの日本語指導が必要な外国籍児童生徒が在籍

日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は平成28年度から2年間で2,000人増加し、9,100人に



日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

瀬戸市の現状①



愛知県

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

瀬戸市の現状①

日本語指導が必要な児童生徒がいる学校



日本語教室あり



日本語教室なし

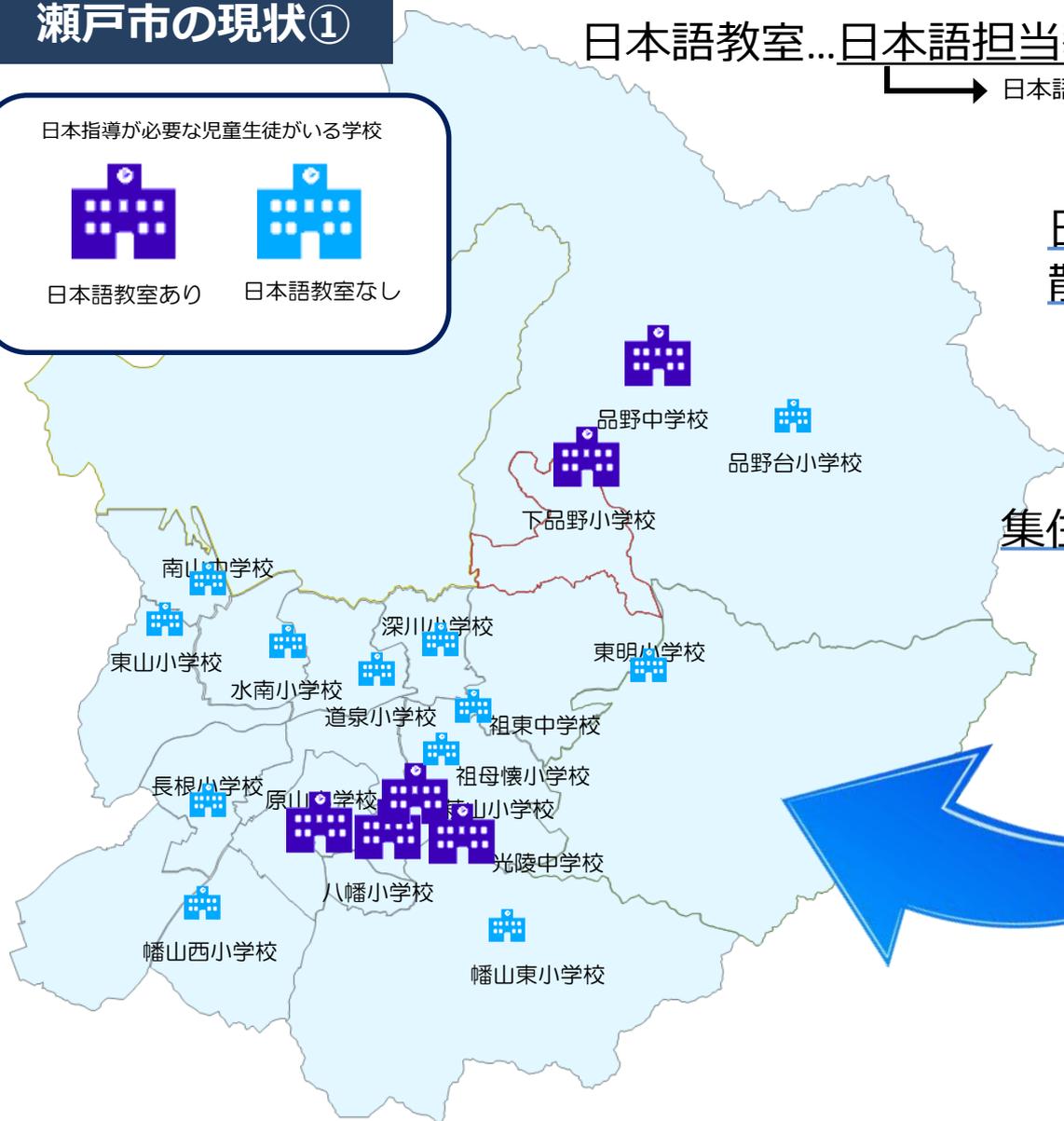
日本語教室...日本語担当教員の加配のある学校で開設

→ 日本語指導が必要な児童生徒が10名以上で加配される

日本語指導が必要な児童生徒が
散在化傾向



集住地域のみの日本語教室では不足



愛知県

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

瀬戸市の現状②

瀬戸市の日本語指導が必要な児童生徒在籍校

18校 / 28校

日本語教室が設置されている学校

6校 / 18校



12校の児童生徒は、
十分な日本語教育を受
けることができていない

遠隔教育システムを活用し、日本語教室が設置されて
いない学校でも、日本語教育を受けることのできる体制
を構築する。

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

日本語指導のレベル

「特別の教育課程」を個々に編成し、個別の指導計画に沿って授業を実施している。

Level 1 サバイバル日本語

- ・日本の学校の学習及び生活のきまり
- ・学校生活に必要な日常会話 など

Level 2 日本語基礎

- ・「発音」の指導
- ・文字・表記の指導
- ・語彙の指導
- ・文型の指導

Level 3 技能別日本語プログラム

- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能のうち、どれか一つに焦点を絞った学習

Level 4 「日本語と教科の統合学習」プログラム

- ・児童生徒にとって必要な教科等の内容と日本語の表現とを組み合わせる。（「JSLカリキュラム」）

Level 5 「教科の補習」プログラム

- ・在籍学級で学習している教科内容を「取り出し」or「入り込み」による指導

日本語初期指導教室

日本語教室

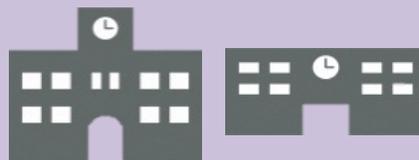
or
各学校

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

実際の日本語指導

サバイバル日本語の習得が必要である

日本語初期指導教室



市内で2校のみ設置している。
設置校以外の児童生徒は学校をまたいで通級をしている。

日本語指導が必要である

日本語教室未設置校

- ・ 遠隔教育システムを活用した日本語指導
- ・ 日本語指導員による指導
- ・ 首級指導員による指導
- ・ 学級担任による指導

日本語教室設置校

市内で6校のみ

- ・ 日本語教室での取り出し授業
- ・ 日本語担当教員による入り込み指導
- ・ 日本語指導員による指導
- ・ 学級担任による指導

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

遠隔教育の位置づけ

外国にルーツをもつ児童生徒 = 日本語レベルが低い
全員同様の指導

対象となる児童生徒の日本語レベルや個々の状況によって、その児童生徒に合った指導が必要

対象となる児童生徒の日本語レベルや、個々の状況、児童生徒及び保護者の意向を把握

指導方法を決定し、児童生徒本人、保護者、担任、担当者と共有をする。

個別の指導計画の中で「遠隔教育システム」による授業も組み込む

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

実際の授業の様子



日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

成果

事業目的 : 市内における、教育の機会均等化
対象児童の日本語レベルの向上
対象児童の自己肯定感の向上

効果測定方法 : 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA
アンケートの実施
児童生徒・担当教員へのヒアリング及び児童の観察

DLAの結果

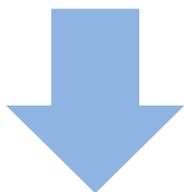
児童生徒名	学年	事前テスト結果	事後テスト結果	伸び率
A	小学4年生	74%	76%	1.03
B	小学2年生	55%	63%	1.15
C	中学1年生	82%	96%	1.17
D	中学1年生	91%	98%	1.08
E	中学1年生	89%	89%	1.00
F	中学1年生	84%	87%	1.04
G	中学3年生	76%	90%	1.18
H	中学3年生	98%	100%	1.02

 対象児童生徒全員に語彙の向上が見られた。

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

成果 アンケート解析

- ・日本語について
- ・自己肯定感について



①②③④で回答

①を高得点とし、
数字が進むほど低得点
として換算

●あなたは日本語にほんごを読むことがとくいですか？

- 1.とくい 2.まあまあとくい 3.少しにがて 4.にがて

●あなたは日本語にほんごを書くことがとくいですか？

- 1.とくい 2.まあまあとくい 3.少しにがて 4.にがて

●あなたは学校がっこうが好きすいですか？

- 1.とてもすき 2.すき 3.きらい 4.とてもきらい

●あなたはふだんがっこうの学校じやうこうの授業じゆぎやうが楽しいたのいですか？

- 1.とてもたのしい 2.たのしい 3.つまらない 4.とてもつまらない

●あなたは友達ともだちがいますか？

- 1.たくさんいる 2.いる 3.あまりいない 4.いない

●あなたは自分じぶんのことが好きすいですか？

- 1.とてもすき 2.すき 3.きらい 4.とてもきらい

●あなたは外国がいこくから来た友達ともだちがほしいほいですか？

- 1.ほしい 2.どちらでもない 3.ほしくない

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

成果 アンケート解析 (凡例)

児童生徒名

A

1

2

3

4

回答番号

設問番号

② ③

①

① ... 回答が向上した設問

① ... 回答が下降した設問

左に行くほど得点が高い

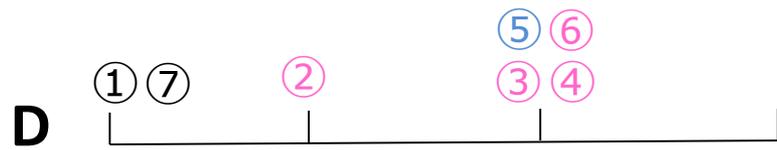
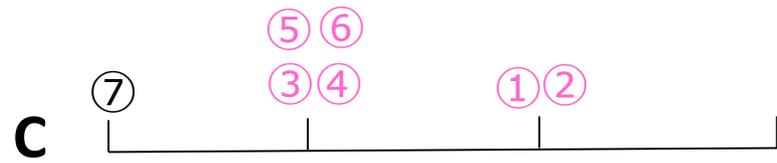
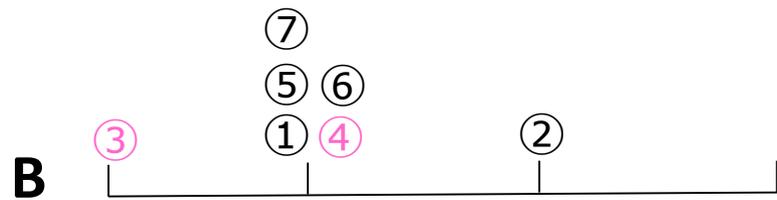
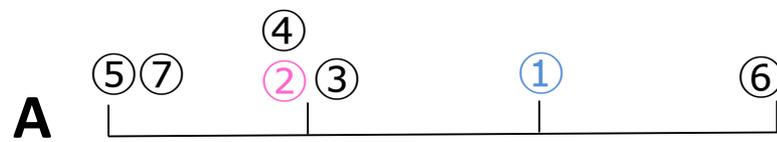
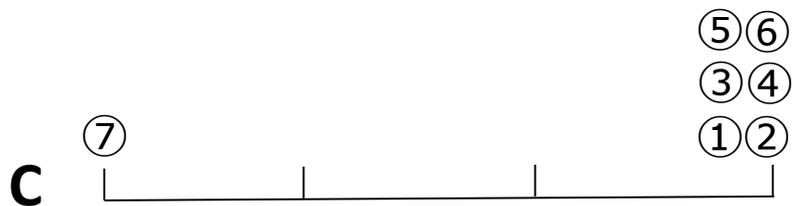
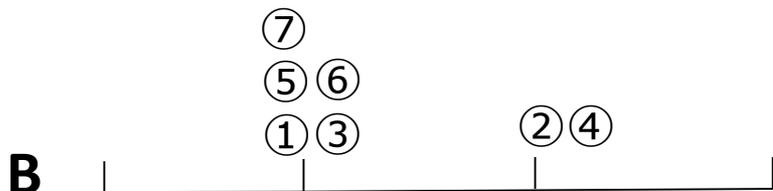
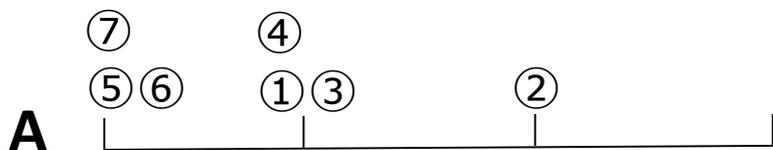
日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

成果 アンケート結果

事前アンケート



事後アンケート

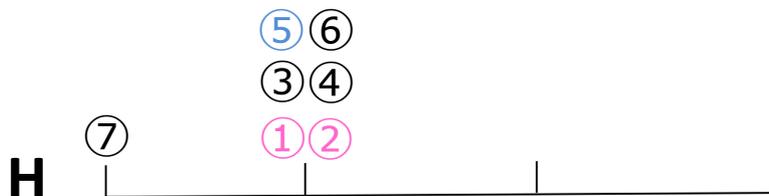
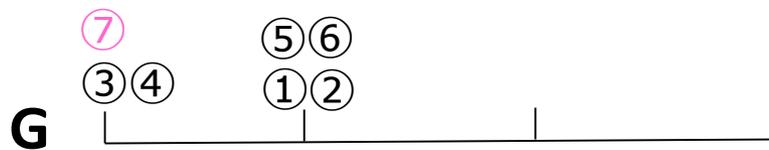
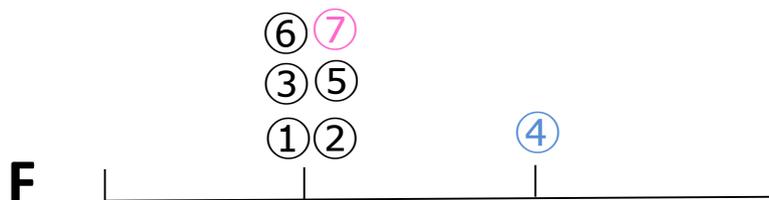
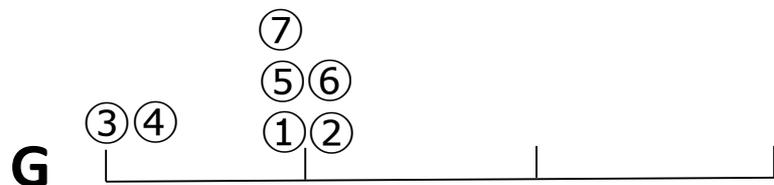
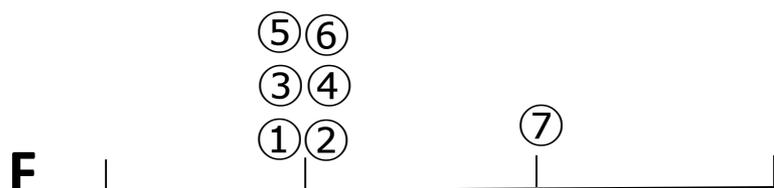


日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

事前アンケート



事後アンケート



日本語への意識や自己肯定感は概ね向上していた。

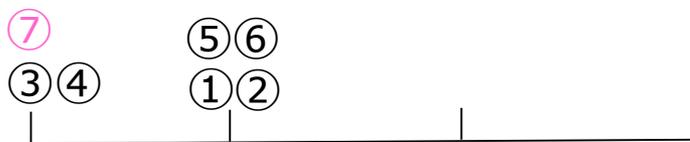
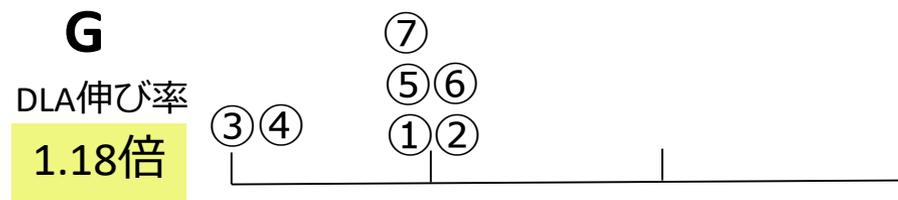
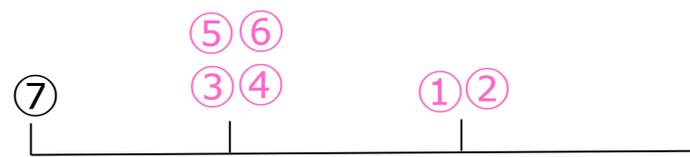
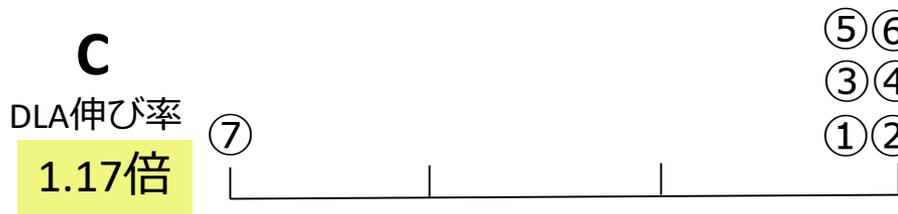
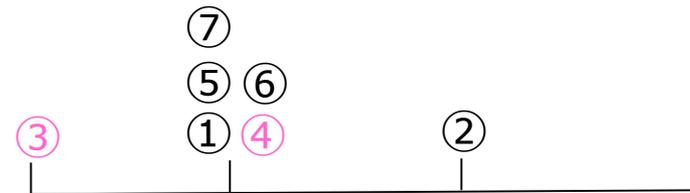
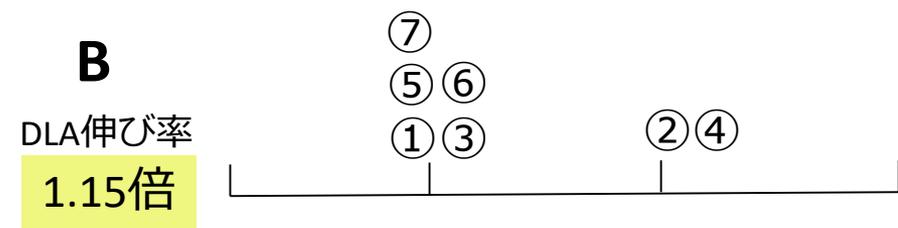
日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

成果 アンケート解析

事前アンケート



事後アンケート



👉 アンケートの結果が向上した児童生徒は、DLAの伸び率が特に高かった。

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

成果

ヒアリング及び観察結果

積極的に学び合う環境となった

- ☞ 相手校の児童生徒の授業態度を指摘したり、躓いた部分を教え合った

失敗を恐れず取り組めるようになった

- ☞ 同じ境遇の児童生徒同士で勉強することで、「間違うのは自分だけではない」と気づき、積極的に発言できた

伝えようとする意識が生まれた

- ☞ 普段声の小さな児童生徒でも、次第に相手に伝わる大きさを発音できた

母語を話す機会となった

- ☞ 受信側の学校の子どもが、同じ国出身の友だちと母語で話す機会になった

課題

教員内で日本語指導への意識の差があった

- ☞ 日常会話はできる児童生徒に対し、日本語指導の必要性を感じていなかった

時間割の調整が困難であった

- ☞ 特に中学校では時間割調整が難しく、思うように接続できなかった

向いている教科と向いていない教科があった

- ☞ 計算問題などの算数は、各校それぞれでの取り組みになってしまった

日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導

ご清聴
ありがとうございました

